

空手クラスルーム

大松 達知

生業は英語の教員である私。習性で、これは英語ではなんというのか？をついつい意識してしまう。意識するだけで実用性はない。創造的でも思索的でもない。だけれど、そうしないと落ち着かない。その中で、お互いを比較してそれぞれの良さを思うことがある。

単語レベルで考えてみると、例えばお盆はトレイ、文鎮はペーパーウェイト、玄関はフロントドア。日本語の響きと漢字の重みの方には文学的歴史的な重みを感じる。あの物体をオボンと呼ぶところには深い知恵があるような気がする。フミと鎮めると称して文鎮。なかなか詩的である。「玄」は奥が深い悟りの境地を指す禅語であるらしい。普段から口にしてしている言葉の背景にそんな深みがあると知るとうれしくなる。

もちろん英語の方がカッコいいものもある。掃除機はバキューム・クリーナー。バキュームは真空。初期の仕様からそう呼ばれている。(イギリスなどではフーパーとも呼

ばれる。商標名が定着した例。絆創膏をバンドエイドと呼ぶのと近い。) 電子レンジはマイクロウェイブ(マイクロ波)、話は飛ぶが、独房はセル、細胞だったりする。

翅ひろげ飛び立つ前の姿なす悲という文字のアシンメトリー
遠藤由季『アシンメトリー』

シンメトリーが左右対称。それに「ア」という軽やかな否定の音に乗っただけで非対称の意味になる。ヒタイシヨーという硬い響きよりもすつきりしていて軽やかで煽やか。ただ、こういうものは趣味の範囲だし、どの言語間にもあるだろう。

ある中学生が「教室って英語で何ですか？」と聞いてきた。「クラスルーム」と答えると彼は、「I go to karate class-room」と作文に書いてきた。空手教室に行っているらしい。ただし、空手は「教室」では行われない。英語では、I practice karate. (ボクは空手の練習をしています。)で十分。「教室」は一種の比喩なのだ。ただ、tennis schoolは英語。空手は教室で、テニススクールなんだな。ボクは空手に行く、はI go to karate; でもまあ許される感じ。あるいは実はschoolには授業の意味もある。I have school on Saturday. は「土曜日も授業がある」の意味。日本語でも「明日は学校ないけど学校行く」のような会話がありますよね。どうでもいいことを考えてまた時間を使ってしまおうでございます。